

進化し続ける 「緊急地震速報」

Further improvement of Earthquake Early Warnings

新手法の導入により、緊急地震速報の精度が向上します。

PLUM法

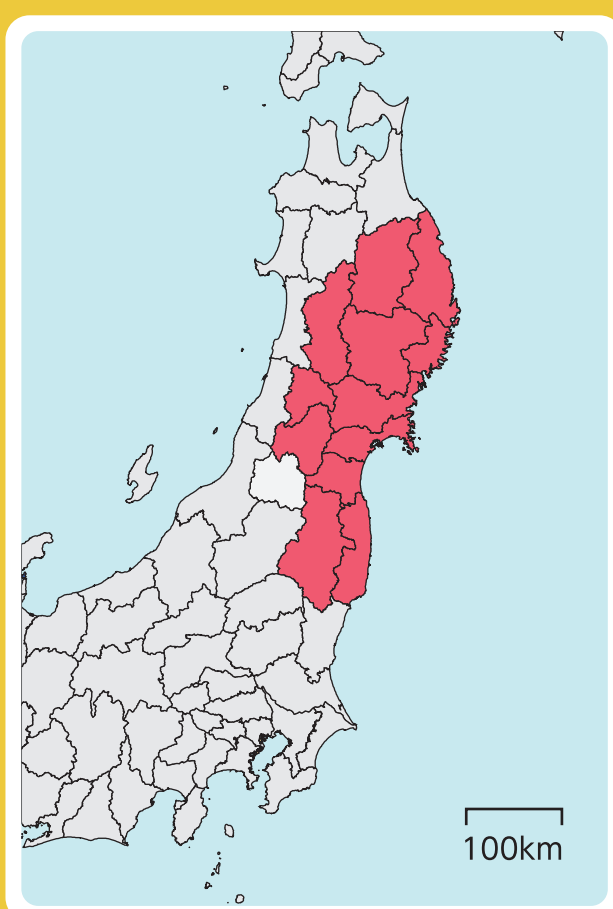
平成30年3月 運用開始

巨大地震が発生した際でも精度良く震度を予想します。

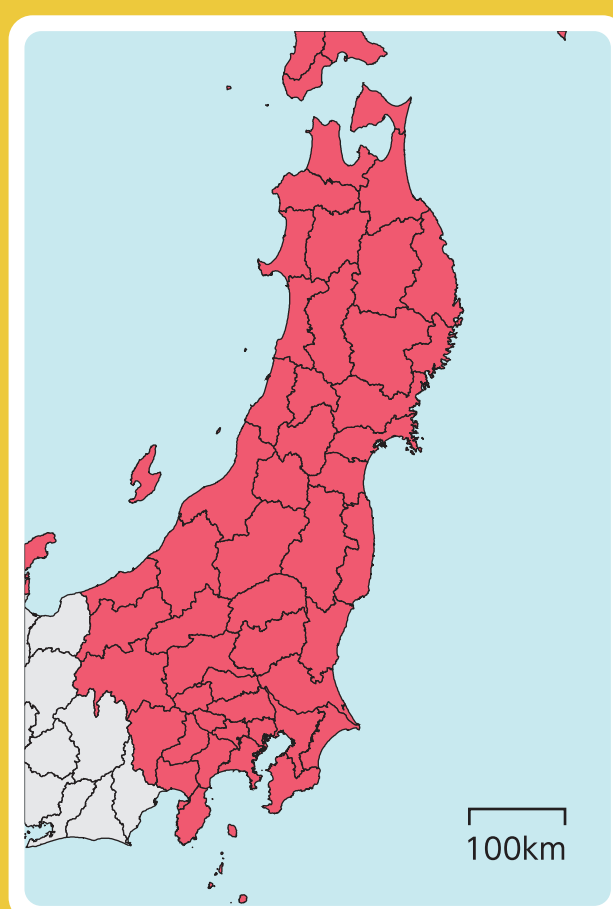
震源域の広い巨大地震に対応できるようになり、震源から離れた地方に対しても強い揺れを予想できるようになります。

改善事例（平成23年東北地方太平洋沖地震）

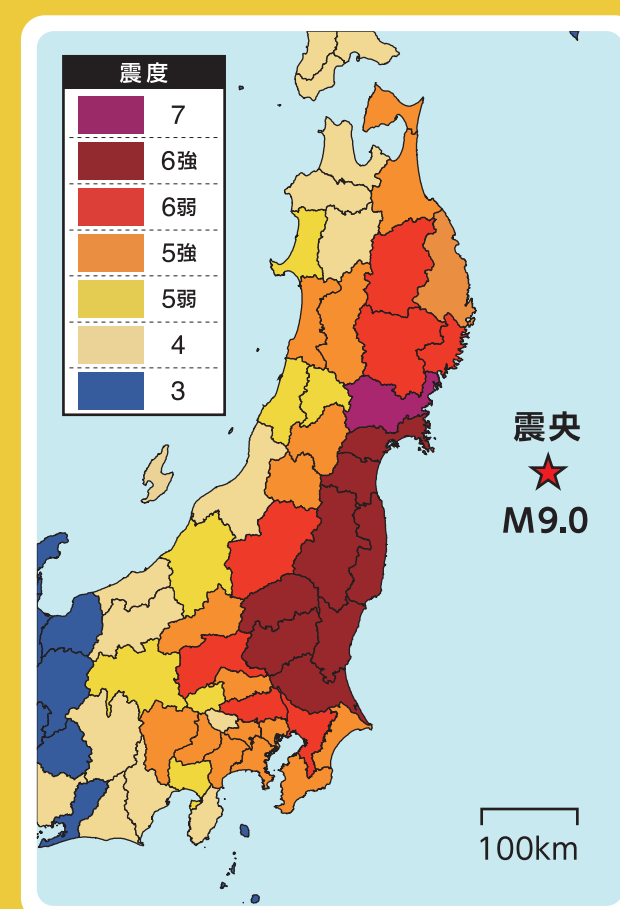
当時の警報発表領域



PLUM法導入後の警報発表領域
(シミュレーション)



実際に観測した震度



※ご利用の専用受信端末によっては、改修等が必要な場合があります。詳しくは専用受信端末の発売元や配信事業者などにご確認ください。

IPF法

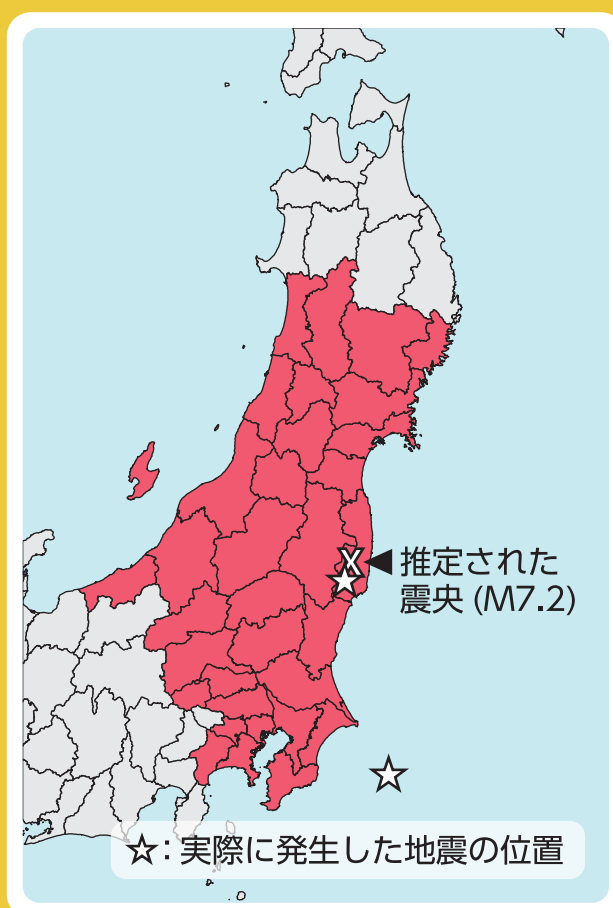
平成28年12月 運用開始

同時発生した複数の地震をこれまでよりも精度良く分離・識別します。

右の事例では、2つの地震から過大な震度の予想をしましたが、IPF法では地震を識別して適切な処理が行われています。

改善事例（平成23年3月22日12時38分頃の緊急地震速報）

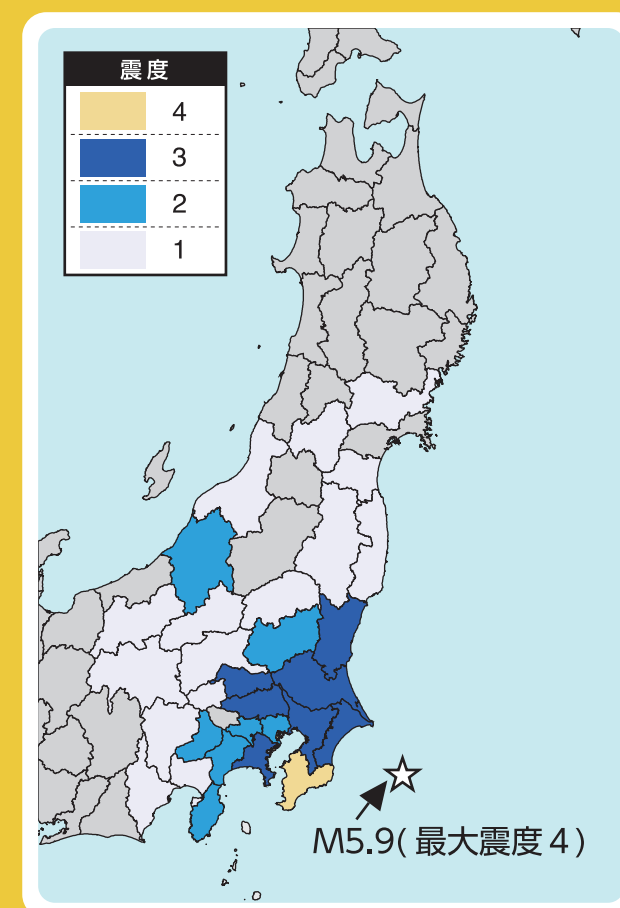
当時の警報発表領域



IPF法を活用した場合
(シミュレーション)



実際に観測した震度



緊急地震速報を見たり聞いたりしたら、周囲の状況に応じて、あわてず、まず身の安全を!!



あたまをまもる



かぐからはなれる



へいからはなれる



落ちてくるものにちゅうい



あわてて外にとびださない



近くの階でおりる



急ブレーキをかけない



ハザードランプをつけて減速

緊急地震速報利用者協議会 制定

